発行済株式総数 10,656,000株　株主数 3,792名

株式の状況

2014年
9月30日現在

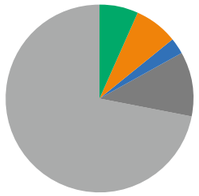
▌大株主

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
パナソニック株式会社	6,787	63.69
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	615	5.77
パナソニックIS自社株投資会	256	2.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	87	0.82
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	65	0.61
CREDIT SUISSE SECURITIES (EUROPE) LIMITED PB OMNIBUS CLIENT ACCOUNT	62	0.58
JP MORGAN CHASE BANK 385093	58	0.54
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口1）	42	0.40
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	42	0.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口6）	41	0.39

持株比率は自己株（372株）を控除して計算しております。

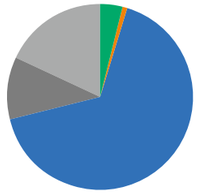
株式分布状況（　）は比率

●所有株数別



- 1～999株 736,905株（6.91%）
- 1,000～4,999株 788,877株（7.40%）
- 5,000～9,999株 297,918株（2.80%）
- 10,000～99,999株 1,171,900株（11.00%）
- 100,000株以上 7,660,400株（71.89%）

●所有者別



- 金融機関（22名） 430,900株（4.04%）
- 証券会社（26名） 77,978株（0.73%）
- その他の法人（50名） 7,095,400株（66.59%）
- 外国法人等（92名） 1,155,066株（10.84%）
- 個人・その他（3,602名） 1,896,656株（17.80%）

会社概要

2014年9月30日現在

商号	パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社
設立	1999年2月22日
資本金	1,040百万円
事業内容	情報サービス
従業員数	702名（連結）

連結子会社

- パナソニック ネットソリューションズ株式会社
  資 本 金：70百万円
  事業内容：グループウエアの開発など
- ヴイ・インターネットオペレーションズ株式会社
  資 本 金：60百万円
  事業内容：セキュリティシステムの開発など

役員

代表取締役社長	前川 一博
代表取締役副社長	岡島 万樹
専務取締役	久野 晃
常務取締役	黒野 尚
取締役	吉川 達夫
取締役	大西 元
取締役	前田 孝
取締役	中川 隆広※1
取締役	古田 英範※1
監査役	中林 裕二
監査役	岩橋 誠※2※3
監査役	古澤 英治※2
執行役員	田中 啓介
執行役員	前川 満
執行役員	丸山 博儀
執行役員	南部 和彦
執行役員	酒井 智幸

※1 社外取締役　※2 社外監査役　※3 株式会社東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じる恐れのない独立役員として指定。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会　3月31日 剰余金の配当　3月31日、9月30日
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所　市場第一部
証券コード	4283
公告方法	電子公告 当社ホームページに掲載いたします。ただし事故その他やむを得ない事由によって、電子公告により行うことができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。

● 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主さまは、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主さまは、右記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目４番１号　三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所

大阪市中央区北浜四丁目5番33号　三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号　三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先

0120-782-031

インターネットホームページ

http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

● 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主さまには、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお願いいたします。

※本紙に記載された社名および製品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

この冊子に関するお問い合わせ先　電話 06-6906-2801（代表）

Panasonic

■特集　02
■連結財務諸表　03
■トピックス　03
■株式の状況　04
■会社概要　04
■株主メモ　04

株主通信 第17期 第2四半期

2014（平成26）年4月1日～2014（平成26）年9月30日

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社
http://is-c.panasonic.co.jp/　証券コード：4283

下半期に向けて回復基調が鮮明

株主のみなさまには日頃から格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
この上半期は、大企業を中心に設備投資意欲が高まる一方、IT投資には慎重な姿勢が続きました。この間、当社グループは、第1四半期の遅れを取り戻すべく、一般市場・パナソニックグループ双方に向け積極的な提案活動を進めてまいりました。
その結果、一般市場のクラウドサービス売上拡大が続き、パナソニックグループでもシステム開発案件が本格化したことなどから、上半期は増収となりました。利益につきましても、増販による効果や合理化・効率化によるコスト削減などにより、第1四半期に比べ回復基調が鮮明となってきております。
今後、期末にむけては大型プロジェクトが相次いで本格始動いたします。これらを確実に推進しながら、新規案件の獲得にも引き続き注力し、業績目標の達成をめざしてまいります。
役員・社員一同全力で取り組んでまいりますので、株主のみなさまにおかれましては、なお一層のご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長　前川一博

大型案件推進と新規獲得めざす

Q 下半期の具体的な取り組みは?

A 大型案件が次々に本格始動しています。

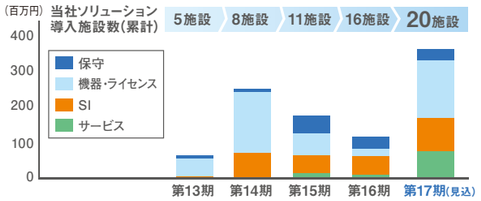
販売管理システム「MetaForce」を核としたシステム構築案件、大手サービス業基幹システム関連案件などがスタートしています。また、集客施設向けのチケット販売管理・POSシステムもプロ野球スタジアム、サッカースタジアムなどで複数受注しており、今後サービスインに向けて着実にプロジェクトを進めてまいります。

Q 集客施設向けシステムの現在の状況は?

A 導入施設数は累計20施設に。提案の幅も広がり始めています。

昨年、今年と大型施設にて次々とサービスインしており、今年度末には、累計施設数が20施設に達する見込みです。また、単なる機器・ライセンス販売にとどまらず、保守、構築、運用など、サービス内容も多岐に広がり始めています。

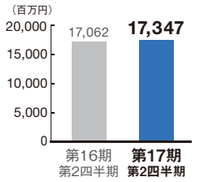
■集客施設向けソリューションの展開



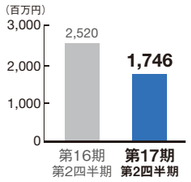
連結業績ハイライト

ポイント
- システムサービス、システムソリューション共に増収
- 減益となるも、1Qから2Qにかけて回復基調

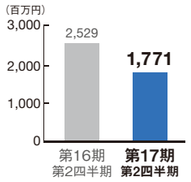
［売上高］
173億47百万円 ▲UP
（前年同期比 1.7%増）



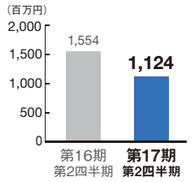
［営業利益］
17億46百万円 DOWN▼
（前年同期比 30.7%減）



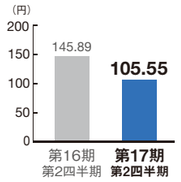
［経常利益］
17億71百万円 DOWN▼
（前年同期比 30.0%減）



［四半期純利益］
11億24百万円 DOWN▼
（前年同期比 27.6%減）



［1株当たり四半期純利益］
105円55銭 DOWN▼
（前年同期比 40円34銭減）



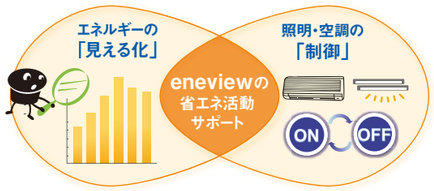
◆特◆集◆

3種のエネルギーマネジメントを展開

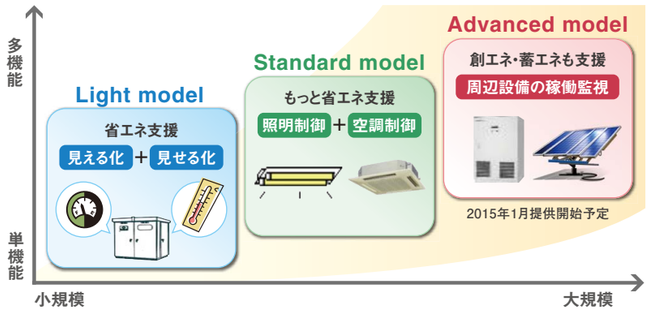
省エネ法の改正や電気料金の値上げなどにより、企業や教育機関には継続的な省エネ活動が求められています。近頃のエネルギーマネジメントの現状をご存知でしょうか。

省エネ活動の基本は電力の「見える化」。それだけでなく、利用者全員に電力使用状況を知ってもらう「見せる化」も、意識改革の方法として効果的です。当社では、エネルギーの「見える化」「見せる化」で省エネ活動をサポートする環境監視ソフトウェア「eneview」をご提供しています。この9月にバージョンアップし、新たに照明制御装置・空調制御装置との連携にも対応。ピーク電力をカットするために、自動的に照明／空調を停止させるといった制御が可能になりました。

また「eneview」を核とするエネルギーマネジメントソリューションは、これまでの「Standard model」に加えて、小規模向けで手軽に導入できる「Light model」も新たに用意しました。2015年1月には、より大規模向けで多機能の「Advanced model」も展開予定です。「まずは見える化から…」という企業にも「創エネ・蓄エネまで賢くエネルギーマネジメントしたい！」という企業にも、施設規模や用途に合わせて最適な方法をご提案してまいります。



「eneview」を核とするエネマネソリューション



ピーク時の電力需要 制御も可能に

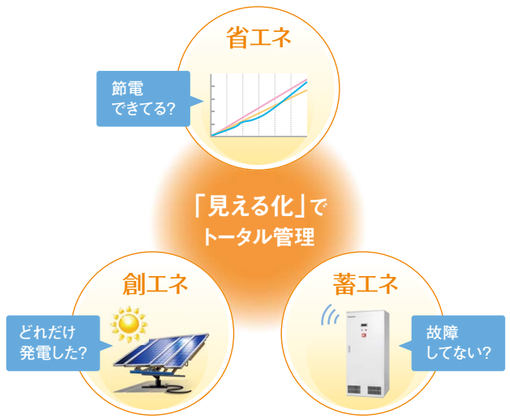
eneview（エネビュー）開発秘話

eneviewは、2010年の発売当初はデータセンターのみを対象とした環境監視システムでした。

データセンターはサーバの稼働電力だけでなく、それを冷やすための空調も含めて莫大なエネルギーを必要とします。しかしむやみに節電すると、サーバに異常をきたしてシステムが止まってしまいます。電気のムダを抑えながら、24時間消費し続ける電力の傾向を監視することが大切です。そんな中、2011年3月の東日本大震災をきっかけとして節電のニーズが急速に高まりました。「オフィスの節電にも利用したい」というご要望を非常に多くいただき、2011年10月にはオフィスビルや工場へも対応しました。

省エネ 創エネ 蓄エネ

エネルギーを節約する「省エネ」はすっかり世の中に浸透しました。近ごろはこれだけでなく、太陽光発電などでエネルギーを作り出す「創エネ」と、余ったエネルギーを蓄電池にたくわえる「蓄エネ」という言葉も多く聞かれるようになっています。例えば、昼間に太陽光発電の電力を貯めておき夜間に電力供給するなど、エネルギーはますます賢く活用できるように。さらには電気を貯めておくことで、停電といった非常時にもライフラインを確保することが可能です。「eneview」によるエネルギーマネジメントソリューションなら、電力使用量に加えて発電量も見える化し、トータル管理することができます。また、機器異常がないかどうかを24時間365日の体制で監視したり、発電効率をチェックして日々のメンテナンスに活かすことも可能。一歩進んだ“エネマネ”を万全の体制でサポートしてまいります。



連結 財務諸表（要約）

●連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目	当第2四半期連結会計期間（平成26年9月30日）	前連結会計年度（平成26年3月31日）
資産の部		
流動資産	27,023	27,812
固定資産	5,413	5,469
有形固定資産	2,883	2,987
無形固定資産	758	618
投資その他の資産	1,771	1,864
資産合計	32,437	33,282
負債の部		
流動負債	4,805	6,406
固定負債	779	991
負債合計	5,584	7,398
純資産の部		
株主資本	27,581	26,803
資本金	1,040	1,040
資本剰余金	870	870
利益剰余金	25,671	24,893
自己株式	△0	△0
その他の包括利益累計額	△729	△918
純資産合計	26,852	25,884
負債純資産合計	32,437	33,282

●連結損益および包括利益計算書

（単位：百万円）

科目	当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）	前第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年9月30日）
売上高	17,347	17,062
システムサービス売上高	11,311	11,169
システムソリューション売上高	6,035	5,893
売上原価	13,996	13,116
システムサービス売上原価	8,970	8,349
システムソリューション売上原価	5,026	4,767
売上総利益	3,350	3,945
販売費及び一般管理費	1,603	1,424
営業利益	1,746	2,520
営業外収益	27	22
営業外費用	3	13
経常利益	1,771	2,529
税金等調整前四半期純利益	1,771	2,529
法人税等合計	646	974
少数株主損益調整前四半期純利益	1,124	1,554
四半期純利益	1,124	1,554
少数株主損益調整前四半期純利益	1,124	1,554
その他の包括利益	189	48
四半期包括利益	1,313	1,602
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,313	1,602
少数株主に係る四半期包括利益	－	－

●連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目	当第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）	前第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,468	2,416
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,753	△2,497
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 452	△445
現金及び現金同等物の増減額	△ 737	△525
現金及び現金同等物の期首残高	4,260	5,499
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,523	4,973

トピックス

事業紹介コンテンツを公開

当社はこのたび、当社の事業をわかりやすくお伝えするWebコンテンツ「経験の樹」を公開しました。こちらのコンテンツでは、私たちが50年余りの歴史で育んできたもの、お客さまにお届けしたいものを成長する1本の樹に例えました。主な事業と、長い歴史から得た6つの強み、そしてこれまでの歴史を動画も交えながらご紹介しています。是非ご覧ください。

当社ホームページの「パナソニックISのなりたち 経験の樹」をクリックしてご覧になれます。

伊豆ぐらんぱる公園へチケッティングシステムを導入

当社は、伊豆ぐらんぱる公園へチケッティングシステムを導入し、2014年7月1日に本番稼働を開始いたしました。これは伊豆シャボテン公園に次ぐ、株式会社サボテンパークアンドリゾート（以下、SPR）の運営施設へのシステム導入第2弾となります。

今回、伊豆シャボテン公園と同一のシステムを伊豆ぐらんぱる公園にも展開したことで、両公園のチケット販売管理業務を標準化し、オペレーションのさらなる合理化に貢献しました。

さらに2014年10月1日には、SPR本社にて売上統合管理システム・団体予約管理システム・営業情報モニタリングシステムの本番稼働を開始しました。